

# 繰り返しの学習効果



～難聴者の「学ぶ」「働く」の可能性を広げる社会づくり～

一般社団法人言葉のかけはし 代表理事 岩尾 至和

## 小学校での映像教材の活用事例

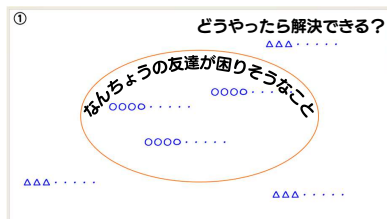
- 対象児童は、  
小2から小6まで年に1回難聴理解講座を受講  
(小4、小6時全クラス、その他は難聴児在籍クラスのみ)
- 小6時、5クラス合同、体育館で  
「困りごとなんなん？」を活用  
⇒グループワーク編①、②  
給食・休み時間編②



## 講座の流れ



### ①映像を見て



### ②ワークシートで考えて

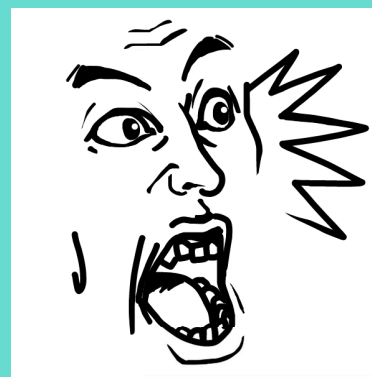
- ・1人1人がまず考える機会を作る



### ③全体シェア

- ・全体シェアで、いろんな意見を共有し、引出しを増やす
- ・最後に講師の解説を加える

## 学習の最大効果



インパクト！  
映像にグッと引き寄せられる

繰り返し

## 5年間繰り返した成果①

小学校5,6年生に初めて  
難聴理解講座をすると、  
「いつも話を聞いてない、よく  
無視をされると思っていたけど、  
あれは聞こえてなかったんだと  
分かった」  
という感想が必ずある

分かって  
くれた

5年目では  
この感想は  
0だった



## 5年間繰り返した成果②

グループワーク編で  
「聞こえにくいと思うので、  
確認すればいいと思います」  
という一歩進んだ答えが出る

教えられたこと  
から、一歩進んで  
**工夫する力**が  
養われる



## 5年間繰り返した成果③

「難聴の人が特別ではなく、  
みんなと同じ立場で生活する  
ための助けだと思いました。」  
という感想が出た。  
同じような感想が4人ほど。  
※講師は講座でこの言葉を使ってない

この子たちが  
未来の理解をきっと  
拡げてくれる！

難聴に限らず、  
人として大切な学び  
が得られる

<一般的な感想>

- あんなに聞こえづらいなんてびっくりした。
- 無視してるわけじゃなかったんだ
- 難聴の人は大変だと思った
- 身振り手振りを使いたい



## 一方・・・

「後ろからは聞こえないんだと  
いうことが分かった」  
という感想も出た。  
5年間毎回伝えていたこと。

全員が毎年受講したわけではないし、  
聞いたとしても、流されることもあるし、  
忘れてしまうこともある。

大切なことは、  
何度でも  
言う必要があるし、  
言って良い！



# 何回もやると飽きられないか？

「年に1回あるなんちょう講座は学年ごとに受け止め方がちがっていたかもしれません。だからこそ、6年になったら、もう次の講座をうけないという気持ちで聞きました。」という感想があった。

何回やっても子どもたちは学んでくれる！

忘れることもあるし、毎年、受け止め方も違う



# 繰り返すなら、



ネタは多い！

じゅ ぎょう へん  
-授業編-

きゅうしょく やす じかん へん  
-給食・休み時間編-

たいいく ぶかつどう へん  
-体育・部活動編-

へん  
-グループワーク編-

いどう へん  
-移動編-

かいしゃ へん  
-会社編-